



環境福祉学会

News Letter

ニュースレター October 2011

20

目次

第7回年次大会の開催	1
事例研究会挨拶	2
事例研究会①	3
事例研究会②	4
事例研究会③	5
研究発表演題	6
組織及び役員一覧・事務局だより	6

環境福祉学会 事務局 株式会社環境新聞社事業部内
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1 富澤ビル
TEL. 03-3359-5349 / FAX. 03-3359-7250
http://www.kankyofukushi.jp/
E-mail: info@kankyofukushi.jp

第7回年次大会は、11/13（日）京都で開催！

大会テーマ：環境福祉学によるまちづくり

環境福祉学会 第7回年次大会概要

開催日：平成23年11月13日（日）

会場：京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺栗田町93番地）

プログラム：

〈一般研究発表〉

10：00～12：00 分科会（第1～第3分科会）

〈公開シンポジウム〉

13：00～13：15 開会挨拶・来賓祝辞

13：15～14：00 特別講演 テーマ：「人類持続社会は誰もが役割を持つ社会」

講師：内藤正明（元京都大学大学院・地球環境学舎/学舎長、〈民産官協働組織〉「京のジェンダフォーラム」代表理事）

14：00～14：40 基調講演 テーマ：環境福祉学による持続可能なまちづくり

講師：植田和弘（京都大学大学院経済学研究科教授、学会理事）

14：50～16：50 パネルディスカッション

テーマ「環境福祉学によるまちづくり

ー日本における社会病理への環境福祉学からのアプローチ」

コーディネーター：

炭谷 茂（学会副会長、学習院大学法学部特別客員教授）

パネリスト：

山田 實（NPO法人 釜ヶ崎支援機構理事長）

長野敏宏（御荘病院院長）

永野良子（社会福祉法人阪南福祉事業会児童養護施設あおぞら園長）

16：50 閉会挨拶

17：00～18：30 懇親会

参加費 大会参加費（予稿集、弁当代を含む）

5,000円（学生3,000円）

公開シンポジウムについては無料

（予稿集希望者は500円で頒布）

懇親会参加費 4,000円（学生2,000円）

環境福祉学会 2011

第7回 年次大会

平成23年 11月13日 10：00～17：00
会場：京都リサーチパーク（京都市下京区）

大会テーマ 環境福祉学によるまちづくり
ー日本における社会病理への環境福祉学からのアプローチ

プログラム
10：00～12：00 「一般研究発表」
13：00～17：00 公開シンポジウム
特別講演：「人類持続社会は誰もが役割を持つ社会」
講師：内藤正明（元京都大学大学院・地球環境学舎/学舎長、〈民産官協働組織〉「京のジェンダフォーラム」代表理事）
基調講演：「環境福祉学による持続可能なまちづくり」
講師：植田和弘（京都大学大学院経済学研究科教授、学会理事）
パネルディスカッション
テーマ「環境福祉学によるまちづくりー日本における社会病理への環境福祉学からのアプローチ」
コーディネーター：炭谷 茂（学会副会長、学習院大学法学部特別客員教授）
パネリスト：山田 実（NPO法人 釜ヶ崎支援機構理事長）、長野敏宏（御荘病院院長）、永野良子（社会福祉法人阪南福祉事業会児童養護施設あおぞら園長）

公開シンポジウム：無料（予稿集希望者は500円で頒布）

会場（予定）
環境会、京都府、京都府、京都新聞社、環境新聞社

第7回年次大会事務局：株式会社 環境新聞社 大阪支社内
大阪市中央区北九条寺町2-6-7 TEL. 06-6252-5895

総司会

環境福祉学会副会長
伊藤 達雄 氏

今日はたくさんの方々に遠方からおいでいただき、ありがとうございます。

私のほうからは全体のお話を少しだけさせていただきます。今日ご出席いただいております「環境福祉学会」というのは、環境と福祉の融合をどのように進めるかというのを、学理と実際に研究しようとする全国学会です。学会本部は東京にあり、現在会員数は二百数十名で、設立されて今年で7年になります。毎年全国大会を開催しておりますが、今年は秋に京都での開催を予定しておりますが、その間に今日のような事例研究会というのを行っております。いままでは主として東京で開くことが多かったのですが、副会長の一人を仰せつかっております私から、事例研究会は現地で足と目で確かめて、それを環境と福祉の融合の研究につなげていく、それが事例研究会でなくてはいけないと申し上げまして、それならばこの中部のどこかでやってくださいという会長のご依頼もあり、今日の場になりました。



伊藤 達雄 氏

私はかねてから環境と福祉の融合の実践を行っておられるこの「かざはやの里」は、実際の環境と福祉の融合を進めている事例としては全国的にもトップレベルの実力を備えた事例だと思っております。今日はその全貌をこちらの4人のメンバーから発表していただきます。今日はここで勉強していただいた後、この施設と花園をご覧いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

開会挨拶

社会福祉法人正寿会理事長
伊藤 滋之 氏

ようこそ「かざはやの里」へおいでくださいました。

こうして皆さんと事例発表をし、花の咲いている時期に花園の見学というのが私の少しばかりの夢でしたが、残念ながら現在は一輪も咲いておりません。閉園中です。しかし、2月、3月に始まります梅に向けて、障害者と事業者職員が一丸となってお世話をしております。来年の2月、3月をどうかお楽しみにしていただきたいと思います。それが終われば藤、そして紫陽花へと順番に咲き誇ります。地域の方々も大変楽しみにされておられます。開園来数年になりますが、着実に入場者も増えております。ただし残念ながら今年は震災の影響で多少入園者も減りましたが、来年はそういったムードを吹き飛ばし、たくさんの方に来ていただきまして、地域の障害者のモデル拠点になるべく、職員も家族も期待しております。期間中には障害者の方、家族の方、そして職員が一丸となって皆さまをお迎えしております。

当法人は ITOH アプリハを強力に推し進めております。ITOH アプリハとは、まずは生活にあり、です。そして、園芸・福祉、もうひとつ



伊藤 滋之 氏

は学習療法という3本柱で進めております。この園芸・福祉は1本の柱です。あと2本の柱があるということをお頭にいただいて、施設見学をしていただきたいと思います。いまここで私が説明する時間もございませんし、1度、2度聞いただけでは理解できないところがございます。このように ITOH アプリハを皆さまに知っていただく機会も計画しておりますので、そういう機会に理解していただければと思います。事例研究会でも少し触れますので、ITOH アプリハとは何ぞやということで注目していただければと思います。これで私の挨拶とさせていただきます。

「福祉と環境を融合した 花園かざはやの里の取り組み」

社会福祉法人正寿会企画課長

高橋 律 氏

正寿会のライフかざはやの里にある風早池は、21ヘクタールで周囲が8キロの大きな池で、江戸時代から灌漑池として使われてきた歴史のある池です。

昭和45年には、ショートコースとして伊勢温泉ゴルフクラブが開業し、そのゴルフ場で競技会をいろいろ開いており、平成8年に身体障害者ゴルフ教室に関わることになります。「視覚」「聴覚」「肢体」「車椅子」にグループ分けして競技会を行い、三重県身体障害者ゴルフ連合会と共催で約10年間運営し、ゴルフをしたことがない障害者も参加し、延べ人数では千名近い方が参加してゴルフに携わりました。

そしてコースの半分を改造し梅・藤・紫陽花の植栽を始めて、平成23年現在、「梅園約2万㎡45種650本」「藤棚約1万㎡9種1,800本」「あじさい園約33,000㎡56種75,000株」の花園ができ、これが「福祉と環境を融合したかざはやの里」です。「正寿会福祉活動の目的と内容」ですが、障害を持つ利用者と高齢者への自立支援とQOLの向上です。学習療法と呼んでおります学習福祉、それから生活リハビリ、園芸福祉で、頭と体と心です。この3つが兼ね備わることによって、Intelligence、Total approach、Output to Healthという「ITOH アップリハ」になります。

正寿会職員が平成19年から日本園芸福祉普及協会の初級園芸福祉士を取得し、現在17名の職員が取得しています。資格はあるが現場は初心者で、園芸福祉を手探りで始めました。活動当初は、園芸福祉士が準備をして、利用者が花を植えたり、種を撒いたが、「お膳立て」「困難なところ」は、見るだけでした。如何にして利用者がすべてに関わり、継続して満足して自立出来るかが課題でありました。

平成19年に、公文学習療法と理学療法の現場を視察し、その時気づいた事が「コミュニケーションツール」の作成と「インストラクター、指導者」の育成でした。そして、知的障害者とジャガイモ栽培をする時に、利用者が自分で園芸出来るように「音読書」を作りました。インターネットや文献、園芸書を調べ、利用者は音読の写真でイメージし作業をすることができるよう工夫をした、独自の「園芸音読書」でした。

音読書で利用者と「コミュニケーションを取りながら音読」して園芸活動を始めました。音読書は職員が作成することができるので、園芸音読書を工夫すれば、園芸作業だけでなく、マナーや規律、考え方など、その時伝えたいことを明記することで、生きたマニュアルになり、その内容を職員が伝える時に、利用者と共感が生まれ、利用者も心を開き、互いに通じ合う事が出来るようにな



高橋 律 氏

りました。

園芸福祉の企画というのは、商品を作っていくことも大切です。ここには藤が800本あり、その蔓に食物繊維があることが分かりました。食物繊維はワカメの2倍、100グラム中の69.8グラム入っていることが分かり、いままではその藤の蔓を集めて捨てていましたが、これを乾燥させて、粉碎し、そして錠剤にするというように商品を開発いたしました。「自然の恵みで健康維持」ということで商品化したのが、「藤食物繊維錠剤・ファイバーA」「藤ファイバー配合クッキー・ちからっこ」「藤ファイバー入雑穀米・藤のちから」「藤ファイバー配合石鯛・藤だより」の4品目で、アレルギー機能改善食品として特許申請中です。また、「低カロリー食品」として、糖尿病とその予備軍の減少対策、それからメタボリックシンドローム者への対策として、鈴鹿医療科学大学と共同研究を行っています。

この藤を使って商品を作りましたが、それは正寿会の自立支援がいちばん大きな計画であり、その自立支援計画は何を柱にするかをご説明いたします。この花園を三重県の新名所として観光客を誘客しようということです。この売上は利用者の授産工賃になりまして、園芸と伊勢温泉と茶屋が花園のほうで、この売上は上がっていますが、一般の企業さんからいただくのは下がっています。これをどうしていくかということで、モノづくり、観光、そして福祉を一体化して利用者に支払いを行います。

そのような状況で、紫陽花が鹿に花芽を食べられるという被害を受けております。シカは強力な消化酵素を持っておりまして、枝は全部枯れてしまいます。毎年被害が増えていき、平成22年11月下旬頃はあじさいの新芽を「鹿」に一晚で600株以上が食い荒らされ、翌年1月頃「猪」には一晚で紫陽花500株ほど根からひっくり返され、被害は25,000株に及びました。行政に相談すると、農産物保護地区では無いと断られ、再三被害届をして平成22年に檻を1台貸し与えられました。しかし、禁猟期間に入り撤収され今日に至っており、有効な対策がないのが現状です。

「知的障害者における園芸福祉」

知的障害者入所更生施設 カザハヤ園

川嶋 香代子氏 / 池田雅彦氏

知的障害者入所更生施設かざはや園の概要ですが、入所利用者は男性29名、女性21名で平均年齢は50.1歳です。知的障害者には自立支援法施行に伴い、障害の程度1～6で示す障害程度区分があり、1が軽度の障害、6が重度の障害で示し、かざはや園利用者全体の障害程度区分は平均が4.34となっています。

かざはや園での園芸福祉ですが、知的障害者は私たちが思う以上に生活リズム、環境変化に大きく影響を受け、喜怒哀楽に結び付くと思われま

す。まず「生活リズム」がありますが、これは毎日決められた時間に園芸活動の時間を定め、生活の一部として園芸に関わる日中活動を取り入れることです。負担の少ない毎日の活動は、知的障害者の方たちには「落ち着ける」1つの方法であり、安心につながる習慣でもあります。

次に「環境」があります。生活圏に園芸を取り入れながらも、その活動場所を決め、行動を区切ること、生活場面の切り替えを明確にすることを示しています。知的障害のある方で、言葉の理解が困難な方でも、場所や風景などが視覚が切り替わることで、現在の状況を理解することができ、彼らの心の混乱を避け、情緒不安定になってしまいがちな状況をなくすることができます。

最後に、「変化」があります。変化を事前に音読表、イラストで示します。これからの予定や成長を音読表や見て分かりやすいイラストを用いて、明確にすることで活動をスムーズに取り入れていけるようになります。

知的障害者の園芸福祉の特徴としては、先ほどの生活リズム、環境、変化を実践することで、情緒面での安定が図られるということです。毎日の定期的な園芸活動が始まった平成22年4月から平成23年7月のひやりはと報告書のデータでは、園芸活動の行われる日のトラブル他害件数は486日中18件なのに対し、園芸活動のない日が172日中13件と件数が少ないことが分かりました。

また、情緒の安定から協調性、意欲が芽生えたことがありますが、これは結果的に区分判定に反映されました。平成19年度と平成22年度の更新時の変化として、8名の方が区分判定を軽減されております。

利用者の方の事例についてですが、まず、障害区分が4の77歳男性です。特徴は気が荒く、威圧的な口調が頻繁にあり、健康・みだしなみに無頓着な方でした。園芸活動以前と活動後で変化したこ



川嶋 香代子 氏



池田 雅彦 氏

とが3点あります。以前は1日1箱以上の喫煙でしたが、1日数本に減りました。体重については、減少していたのが、活動後はやせすぎから普通に安定しています。3つ目は他者に高圧的、情緒不安定であったのが、活動後は生きがい作りを感じ、情緒の安定、調和が取れ始めています。

次の事例は、障害区分が4の67歳男性です。特徴としては何ごとにも自信がなく、あらゆる活動の参加を拒否する傾向があり、生活は明るいほうですが、すぐに暴力に訴える一面があります。活動前と活動後ですが、活動に対して拒否的であったのが、活動後には自主性や笑顔が伺えるようになり、怒っている姿が多かったのが、活動後は自ら笑顔で他者に話しかけるようになりました。

今後は、知的障害でかつ高齢者が多いため、体力の低下や認知不足からくる疾病の悪化が懸念され、負の連鎖が考えられます。今後は、本人の心身状態に合わせた園芸福祉が必要で、職員も柔軟に対応することが重要であり、生きがいを切らさないサポートを行うことで、これらの課題が軽減されると思います。

利用者の方に変化があったように、支援員にも変化がありました。園芸作業や話が共通点となり、コミュニケーションが増え一層利用者を知ることができました。次に園芸は日によって活動内容が変わるため、より丁寧な説明を心がけるようになり、利用者の方への言葉使いも変わり、どのような向上が発見できるかを観察し考えるようになりました。

最後に、今後についてですが、園芸にふれて楽しい、面白いと感じてもらえる工夫を支援員がチームとなって社会資源を有効に活用してアプローチするのと、地域住民、ボランティアの方などと一緒にふれあいながら園芸を行い、社会参加を実践していきたいと思っています。

「高齢者における園芸福祉」

老人デイサービスセンターかざはや苑
杉野 浩二 氏

私どもの老人デイサービスセンターは在宅支援の施設で、自宅から来て施設の中で過ごし、自宅に帰るとというのが前提になっています。1日の過ごし方の流れは、入浴、リハビリ、食事とさまざまな活動をしていただきますが、その活動の中に園芸福祉が含まれています。

概要ですが、現在の利用者数は計191名で、1日の平均利用者数は31.8名ですが、ショートステイを利用したり、病欠等で休みの方がいますので、実際には27～28名程度です。要介護1～5が累計で157名、要支援1、2の方々は介護予防と分類され、比較的元気な高齢者で、34名です。要介護度の平均は2.01で、要支援の利用者平均は1.79、平均年齢は84.9歳です。その中の認知症の割合が約40%となっています。

ITOH アプリハの実践を行っており、生活リハビリと楽習療法、園芸福祉の3本柱で運営しております。デイサービスで1日楽しく過ごしているうちに、自然と元気になってくるというのがコンセプトです。

高齢者における園芸福祉ということですが、園芸福祉は知的障害者あるいは障害者の方々と高齢者とは違う点が出てきています。高齢者の生活環境をまず考えておくということです。この人はどういう状態かという生活の環境を考えて、体力・筋力の低下とともに生活が変化しますから、それに合わせた環境を作っていかなければいけません。もう1つは認知症等による理解力の低下、あるいは年相応のもの忘れが出てきます。そうすると、簡単に園芸などができなくなるので、我々は利用者個人に応じた環境を提供していかなければなりません。

高齢者の園芸福祉の3大ポイントがあります。美しいこと・楽しいこと・安心・安全であることです。誰もが参加して、楽しむことができるという、常にレベルに応じた活動を展開していかなければいけません。高齢者の体力と身体能力を考えて我々は樽やレイズドベッドを使ってやっております。誰もが楽しむことができるかというのは、レベルに応じた活動かどうかということで、車イスで全介助が必要な人でも楽しめることはないかと考える必要があります。つまり車イスに乗っていたままですと低いところでは活動できませんから、そういうことも考えなければいけません。

事例の紹介ですが、介護度1の86歳の方です。脳梗塞および転倒により座骨骨折により入院し、退院後は介護度3と認定されました。あまり無理をしないようにと家族から言われておりますので、



杉野 浩二 氏

自宅の畑には出られなくなりました。この方は農家の方で、それが生きがだったので、覇気がなくなってきました。そこで我々は、身近で簡単にできるレイズドベッドでの園芸に携わってもらうようにしました。レイズドベッドの草引きから始め、何を植えるか相談し、白菜やカブを育て、できたミニトマトの株を自宅に持って帰って育てていただきました。そうすると顔色がよくなり、覇気が出てきました。そして以前のように元気になって、1年後の介護認定は3から1に変わり、自宅での農作業も再開し、畑に出れるくらい元気になりました。

もう1つは認知症の方の事例です。認知症は生活環境を変えない、以前やっていたことをやることによって、認知症状が改善されるということが証明されています。この方の場合には認知症状があり、自宅でも園芸活動を止められていましたが、複雑な作業の理解はできませんが、草引き等の単純な作業を手伝っています。そうしますと、自宅では何もさせてもらえないのに、ここではさせてもらえることが嬉しいとおっしゃられて、その後もデイに来ることが楽しいと言われて、デイへの拒否感がなくなり表情も明るくなりました。

通所介護の現状と問題点です。我々の場合は自宅での在宅介護の支援であり、必ず自宅に帰ることがいちばん重要です。つまり、生活の場の中心はデイサービスではなく、自宅です。デイサービスで学んだことを自宅にフィードバックすることで、初めてデイサービスに意義が生まれます。

自分にできることがあると思えたら、誰かのために役に立つことができる。認知症状の方であると生活にハリが出てきて、健康状態、精神状態が安定します。高齢者施設というのはこういう「生きがい」を見出せる環境を作っていかなければいけません。「世話」ではなく「生活」を中心にと考えると、介護は「楽」になってくるというふうを考えております。



環境福祉学会

一般研究発表プログラム

第1分科会

環境福祉学が果たすべき社会的役割に係わる理論的研究

- ①保育園におけるESDの実態と課題—幼児の参画を中心に—
- ②環境福祉配慮型農業の地域経済循環への取組に関する研究
- ③リスクコミュニケーションにおけるファシリテータの役割についての研究
- ④ソーシャルワーカーの現在と未来—環境へのアプローチがもたらすもの—
- ⑤災害福祉序説—環境福祉からのアプローチの可能性—
- ⑥佐渡における環境福祉事業の展開

第2分科会

環境福祉に係わる企業・NPOの活動と再資源化技術開発の最前線

- ①企業の社会貢献活動—名古屋フラワーガーデン・ブルーボネットの事例—
- ②みんなの「働く」がある、しなやかな社会へ
- ③京都発!! 発泡スチロール資源化装置の実演販売による障害者職域開発活動
- ④木材の熱分解物から調製した木酢油の抗菌活性と木材保存剤としての利用
- ⑤廃棄制服素材のリサイクルで農業、緑化資材を開発
- ⑥尿素を用いた木酢液中のホルムアルデヒド除去方法の開発

第3分科会

緑の癒し効果・豊かな人間関係の構築に係わる実践的な研究

- ①給水紐を用いた植物の簡易栽培法6—高齢者への癒しの検討3報
- ②青森ひばによる保育施設等における室内環境の人体に対する効果について
- ③森林がもたらす生態系サービスCO₂評価の次に検討すべき課題は何か?—人工林管理がもたらす癒し機能の評価に向けて—
- ④POMSを用いた新規職員および既存職員の職場のストレス評価
- ⑤地域とつながる環境教育 国際認証グリーンフラッグ取得に向けた活動を通して—熊本県宇城市立不知火中学校での事例より—

■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長	江草 安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長／川崎医療福祉大学名誉学長
副 会 長	伊藤 達雄	名古屋産業大学名誉学長／鈴鹿医療科学大学客員教授
	鴨下 重彦	財団法人小児医学研究振興財団理事長／東京大学名誉教授
	炭谷 茂	元環境事務次官／社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
	堀越 哲二	創造学園大学学長
理 事	泉谷 直木	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役社長兼 COO
	植田 和弘	京都大学大学院経済学研究科教授
	寺田 清美	東京成徳短期大学教授
	土井 康晴	生活福祉研究機構専務理事
	長田 逸平	クライシスマネジメント協議会専務理事
	波田 幸夫	環境新聞社代表取締役社長
	花澤 義和	NPO 法人エコリンク21環境国際総合機構理事長
	藤田 八暉	久留米大学経済社会研究所所長
	松寿 庶	社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授
監 事	伊澤 敏彦	NPO 法人環境資源開発研究所所長
	永井 伸一	獨協医科大学名誉教授
事 務 局 長	小峰 且也	環境新聞社専務取締役
事 務 局	酒井 剛	環境新聞社事業部部長
	王 豊	創造学園大学東京事務所長

事務局 だより

第18回の事例研究会が、9月18日（日）に、三重県津市の社会福祉法人正寿会で開催されました。地方での開催は、今年1月の岡山県高梁市での開催について2回目です。当日は、本学会会員はじめ、地元の環境福祉の関係者約60名が参加して、福祉と環境を融合した花園「かざはやの里」の事例報告を、4名の職員の方にご説明頂き、実際に伊勢温泉ゴルフクラブ内にある、施設と自然環境を見学した。残暑残る初秋で、梅や藤や紫陽花をはじめとする花々はみれませんでした。特に藤棚は、シーズン中に1度は見てみたいと思える状況でしたので、会員の方も機会があれば是非ご覧頂ければと思います。

▼さて、来月は第7回の年次大会が開催されます。研究発表の演題も15題集まり、ニュースレターのこの最終頁に紹介しておりますので、ぜひご参加下さるようお願いいたします。